

教員名

村上友章

企画名

初年次クラス(K02)によるI-1グランプリへの参加

商品開発型  
企業

プレゼン資料準備中の学生



表彰式

## 企画・活動概要

本企画は、神戸学生イノベーターズ・グランプリ(I-1グランプリ)に、初年次教育クラス「自己発見とキャリア開発B」(K02)の学生(32名)が参加し、約3か月にわたって商品開発に挑戦したものである。

今回のI-1グランプリは、本学学生をはじめ、他大学・高校の学生・生徒約180人が参加し「時代の変化に適応した新しいスイーツ・ビジネスを考えよう!」というテーマで、ワッフル・ケーキの店・R.L(エール・エル)の商品開発を競った。これに対して、K02クラスでは、指導教員がまず、32名を6チーム(1チーム、約5人)に分け、大会にエントリーした。したがって、基本的には、I-1グランプリ事務局との連絡は各チームの連絡係が行うことになった。各チームは、他の出場チームと同じく、R.L(エール・エル)や本学審査員を前にして、2回(Liveと動画)にわたってプレゼンテーションに挑んだ。各チームとも、商品開発もプレゼンも初めての経験ばかりか、対面式授業も初めてであったため、当初は手探り続き、悪戦苦闘した。それでも、R.L担当者による質問会(オンライン)やミニ講義を手がかりにして、最終的にはどのチームもユニークなアイデアを絞り出せたと思う。

結果として、全6チームは最終プレゼン大会まで脱落することなく、最後までグランプリに挑むことが出来た。そして、その中から1チーム(チーム・アジア)が決勝戦(対面式)進出を果たし、みごと「特別賞」を受賞した。

## 経緯・背景・目的

初年次教育クラス「自己発見とキャリア開発A」(前期)では、本学が標榜する「夢の種プロジェクト」を具現化するべく、1年生から将来の目標を描いてもらうように、社会人の講話など様々なプログラムを提供している。後期開講の「自己発見とキャリア開発B」もその延長線上にあるが、その内容は基本的には個々の担当教員に委ねられている。

そこでK02クラスでは、前期で学んだコミュニケーション力等を実習し、さらには、よりリアルに「夢の種」を思い描くべく、I-1グランプリへの出場を決めた。つまり、本企画の目的は、チーム・ビルディングが試され、なおかつ、企業人と直接、対峙するI-1グランプリを通じて、初年次教育の教育成果を確かなものとするところであった。



決勝戦に臨む学生

## 取り組む課題

R.L(エール・エル)ワッフル  
(大学HPより)

今年のI-1グランプリの課題は「時代の変化に適応した新しいスイーツ・ビジネスを考えよう!」というテーマの下、魅力ある商品開発を行うことであった。したがって、参加者にはコロナ禍における消費動向を的確に把握し、顧客目線に立ち、個々の能力を最大限に引き出すチーム力が試された。そこでK02クラスでは、日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』(筑摩書房)を参考にして、「目標設定」・「率先垂範」・「同僚支援」を意識したチーム・ビルディングを行うことを課題とした。

## 本学(学生)の役割

I-1グランプリにおける学生の役割は、グランプリに出場し、企業から出された課題に対する答えをプレゼンすることにある。したがって、大会運営そのものは本学事務局を中心に進められるため、比較的、学生が参加しやすい形態の社会共創活動であると言えるだろう。とはいえ、大会テーマは、参加企業にとっては死活的な課題であるため、プレゼンに対する審査員の視線は厳しい。学生・生徒は、これに応え得る水準のプレゼンが求められる。なお、K02クラスは他の「自己キャリアB」クラスと足並みを揃える必要があるため、授業時間外の作業は、担当教員による指導は控えられ、各チームの自主性に任せられた。

プレゼンに見入る審査員  
(大学HPより)

## 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力



## 【活動結果】

りゅうが祭における教室展示(WEB)を行い、I-1グランプリによる公式な中間プレゼン大会、最終プレゼン大会に出場した。1チームが決勝戦進出を果たし、特別賞を受賞した。

## 【活動成果】

見える結果の有無にかかわらず、最後までグランプリを戦い抜くことができたことで、個々の学生が得られた教育的効果は少なかつた様に思われる。それは、今後の大学での学びや就職活動に活かされるであろう。

## 【学生が成長した点】

チーム内の学生同士のコミュニケーションの難しさ、他の出場チームとの比較、そして、審査委員から浴びせられる鋭いコメントにより、大学生としての自覚が深まったように思う。

## 【学生が身につけた能力】

社会人を説得するために求められる能力ープレゼンテーション能力、論理的思考力等の必要性を痛感し、そのワンステップとなるような能力は身につけたように思う。



プレゼン資料準備中の学生

## 指導教員および関係者の紹介

【参加学生】「自己発見とキャリア開発B」(K02 クラス) 32名

【指導教員】村上友章(経済学部)

【協力企業・団体】 R.L(エール・エル)

流通科学大学

